



材木の香りがただよう道（千本通） 昭和40年頃 松井 朋子さん

昭和30年代～平成10年代まで、千本蛸薬師の西北角に「有限会社近和銘木店」がありました。私の祖父と祖母が経営したお店です。

上の写真は昭和40年代、蛸薬師通の路上から店の正面を映しています。大きな看板下にある木製の重厚な看板は、今も家にあります。下の写真は蛸薬師側から店の側面を撮影しています。店はウナギの寝床のように長い敷地にありました。

昭和40年代まで祖父母たちは、店の裏を自宅兼としていたため、母は朱一小→中京中学と中京区で育っています。私の子どもの頃(昭和50年代～60年代)はまだ、千本通り沿いは材木店が多く並ぶ通りで、道を歩くときには木のとても良い香りがしていたものです。